

王将フードサービス (コード 9936)

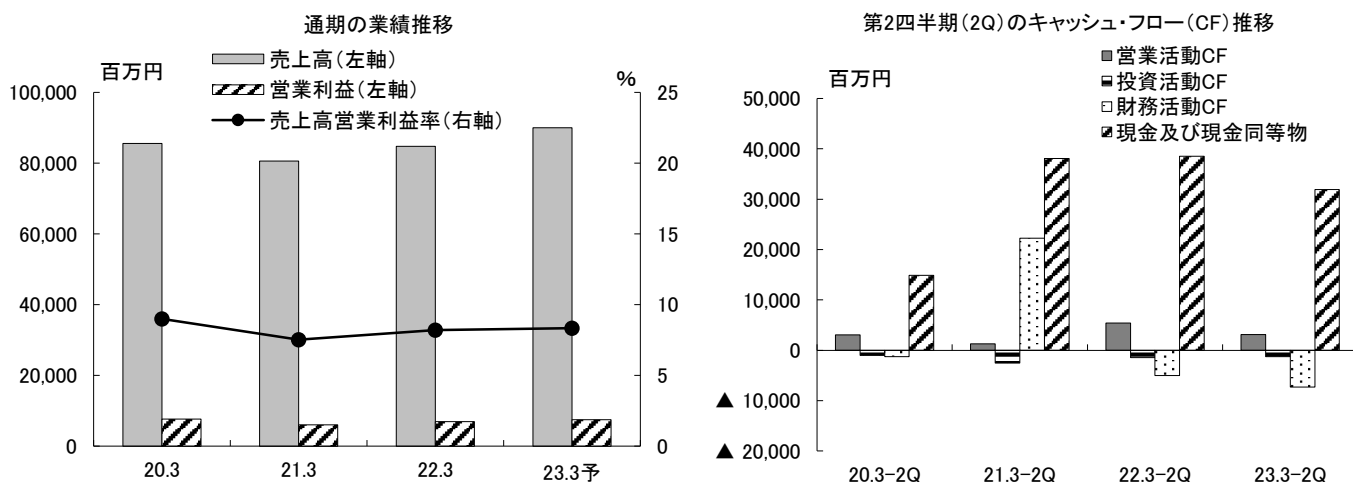
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
20.3	42,568	4,020	148.3	60.0	3,070	▲998	▲1,281	14,906
21.3	39,142	2,391	90.5	50.0	1,281	▲2,551	22,233	38,082
22.3	40,463	3,192	227.6	50.0	5,417	▲1,472	▲5,009	38,528
23.3	45,136	3,820	163.5	60.0	3,096	▲1,267	▲7,332	31,939

◆通期業績推移(連結) (23.3 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
20.3	85,571	7,698	283.1	120.0	7,736	▲2,150	▲2,585	17,117
21.3	80,616	6,073	228.4	100.0	5,824	▲3,444	20,092	39,590
22.3	84,775	6,959	469.0	120.0	13,596	▲2,941	▲12,808	37,440
22.3予	90,029	7,516	291.6	120.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



23年3月期第2四半期の業績概況…23年3月期第2四半期累計期間(22年4~9月)の業績は、売上高451億3,600万円(前年同期比11.5%増)、営業利益38億2,000万円(同19.7%増)、経常利益48億5,600万円(同18.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益(以下、四半期純利益)30億7,200万円(同28.1%減)となった。22年5月に主要14品目の価格改定を行うと同時に、美味しい料理の提供にさらに磨きをかけるなどのQSC向上に加え、各種販促施策を継続的に実施した結果、店内飲食の大幅な回復などから増収、営業増益となった。ただ、営業外収益において、営業時間短縮に伴う協力金収入などの補助金収入が減少(同65.5%減)したことなどにより、経常利益、四半期純利益は減益となった。

直営店の既存店において、前年同期に比べ客数が7.9%増(前年同期は1.0%減)、客単価が1,091円(同1,071円)となり、当期中の直営店全店売上は11.9%増(同3.1%増)となった。直営店全店売上では、巣ごもり需要の高まりを受けて前年同期に33.4%増となったテイクアウト・デリバリーが、コロナ禍の落ちつきによる外出機会の回復に伴って当期は17.8%減となり、テイクアウト・デリバリー売上の占める比率も31.8%(前年同期は43.2%)に低下したが、一方で、テイクアウト・デリバリーからの移行が進んだことにより店内飲食(前年同期は12.1%減)が34.4%増と回復した。なお、当第2四半期累計期間中に直営店1店、FC店1店の新規

出店、F C店 2店の直営店への移行を実施（閉鎖はF C店 3店）し、22年9月末現在の店舗数は733店（直営539店、F C194店）となった。

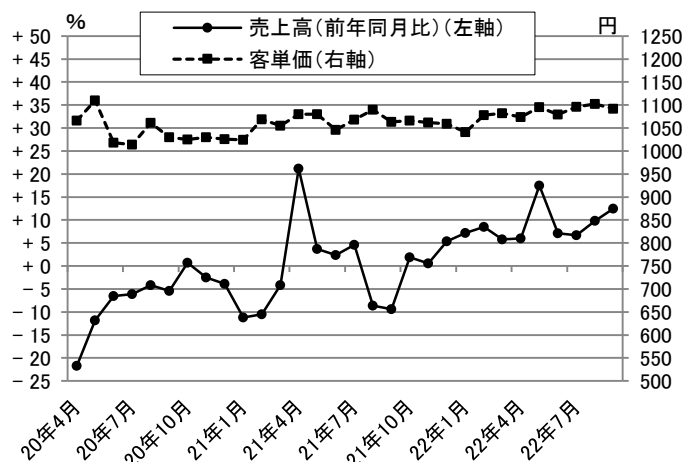
利益面では、原材料の高騰や光熱費の単価上昇などがあったものの、価格改定に伴う客単価の上昇や客数増による増収効果により、売上原価率は31.4%（前年同期は31.3%）と、上昇が抑えられた。また、効率的なシフト編成による人件費コントロールなども加わり、売上高販売管理費比率は60.1%（同60.8%）に低下。この結果、営業利益は拡大し、売上高営業利益率も8.5%（同7.9%）に高まった。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当四半期末における現金及び現金同等物の残高は319億3,900万円（前年同期末比17.1%減）に減少した。営業活動CFでは、税金等調整前四半期純利益が46億800万円（前年同期比26.7%減）、減価償却費が12億8,300万円（同3.2%増）、法人税等の支払額が30億8,000万円（同193.3%増）となったことなどから、営業活動による収入は30億9,600万円（同42.8%減）に減少した。投資活動CFでは、有形固定資産の取得及び売却による差引支出額が11億7,000万円（同5.0%減）となったことなどから、投資活動による支出は12億6,700万円（同13.9%減）に減少した。財務活動CFでは、長期借入れによる収入が100億円（前年同期は無し）、長期借入金の返済による支出が160億1,600万円（前年同期比293.4%増）、配当金の支払額が13億1,500万円（同40.2%増）となったことなどから、財務活動に伴う支出は73億3,200万円（同46.4%増）となった。

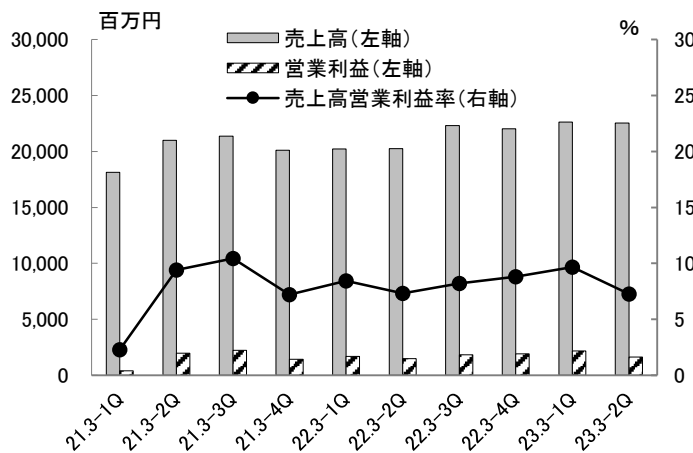
23年3月期の通期業績見通し…23年3月期の通期業績は、売上高900億2,900万円（前期比6.2%増）、営業利益75億1,600万円（同8.0%増）、経常利益86億2,700万円（同33.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益54億7,800万円（同37.8%減）の見通しで、22年5月16日時点での会社側予想値から変更は無い。1株当たりの年間配当金は120円の予定。

通期の新規出店は8店、退店は6店を予定しており、23年3月期末の店舗数は直営544店（22年3月期末比8店の純増）、F C192店（同6店の純減）の計736店（同2店の純増）の計画となっている。

直営既存店の売上高(対前年同月比)と客単価の推移



四半期(Q)ごとの業績推移



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。